

三井のリフォーム住生活研究所 西田 恭子

## ことばの意味の再確認

四月から当社は三井不動産株式会社の傘下に入り、いろいろと意見交換させていただく機会が増えた。

今年度は三井不動産の中にあるS&E総合研究所のケアデザイン室にも、ライフスタイルレポート発行にあたりご尽力いただいている。

リフォーム顧客の一番のボリュームゾーンである五〇代・六〇代と、ケアデザイン室の方々に関わるその次の七〇代・八〇代・九〇代以上の世代との連携を模索することは、顧客へのライフサイクルのトータルサポートの面からも大事だと考えている。

ケアデザイン室の方にレポート会議にも参加していただき、意見交換していると、時々話がかみ合わないことがある。

「住み替えを考えている方にとって……」と言われたときに、日頃「中古を買ってリフォーム」をテーマに考えているリフォーム業界の我々は、個人住宅から個人住宅への住み替えを連想し、ポイントは「家族構成」、「立地」、「通勤距離」、「面積」、そして何といても「ライフスタイル」と続くが、ケアデザイン室の方がおっしゃる『住み替え』は、個人住宅から介護付高齢者住宅に替わることであ

える場があるからこそ誤解は解消し、話はさらに前進していく。

定期的に行っている当社のリフォームセミナーでは、リフォームの進め方としてまず、「家族でよく話しあってください」とお願いしている。意外と身近にいても本当はどういうつもりでその言葉を使っているのかわからないまま、納得している事があるように思うからだ。結果として「言った、言わない」「そんなつもりじゃない」となり、お互いが気まずくなることもあるようで、まずは再確認の場の設定は大事だろう。

仕事では当たり前に行っていることが、家庭内では、「そんなことぐらい、あうんの呼吸だ」と思っていておろそかにしがちだが、「いんじゃない」と言われた時も、それが良しなのか、どれでもいいのかわからない。まずは再確認したほうが無難だろう。

「三〇年連れ添っていても、出身地の違いによる言葉の誤解が未だにある」とおっしゃるご夫婦もいらっ

### リフォームの進め方のポイント

#### 家族で話し合う

どう暮らしたいか

#### しっかり打ち合わせる

要望やイメージを伝える

#### 実物に触れる

ショールームやサンプルで確認



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。